

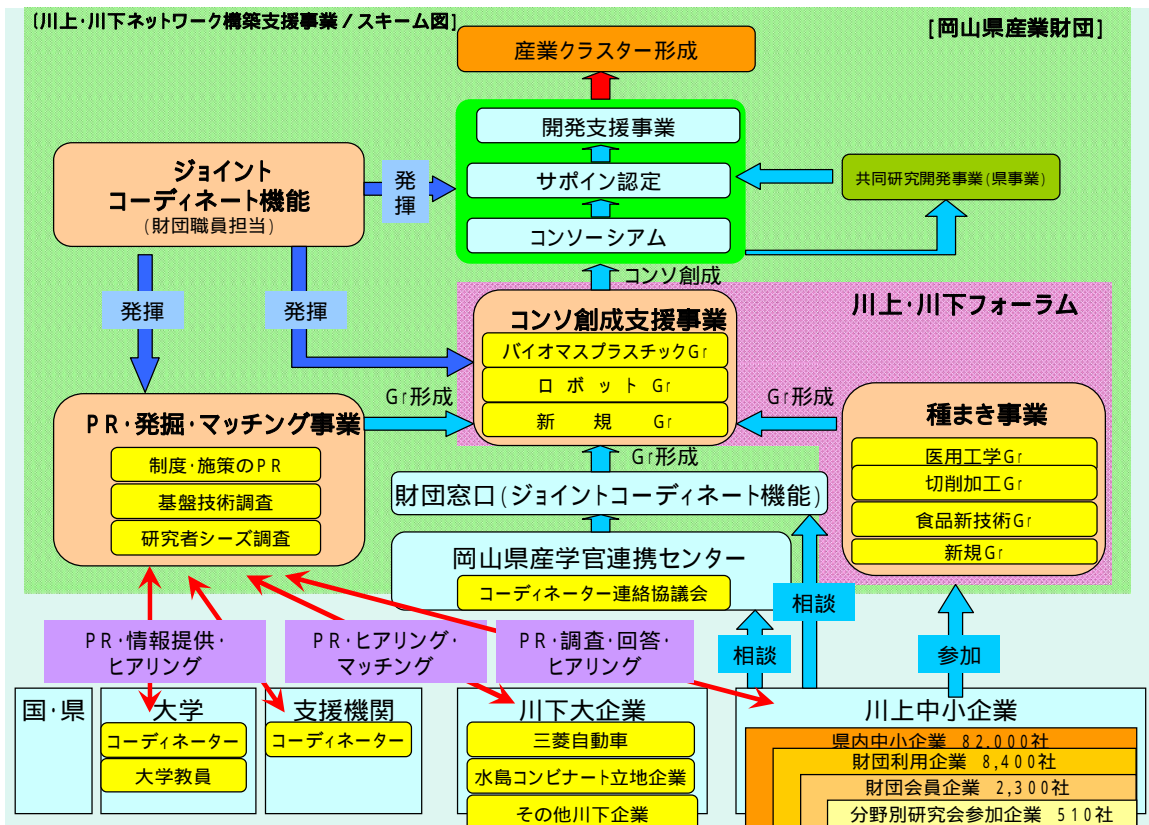
平成19年度 川上・川下ネットワーク構築支援事業
成果報告書

委託法人名 (代表者名)	(財)岡山県産業振興財団 理事長 青井 賢平	所在地	岡山県岡山市芳賀5301
契約名 (テーマ名)	岡山県におけるサポイン案件発掘・育成のための 川上・川下ネットワーク構築事業		

1. 委託業務の概要

- (1) ジョイント・コーディネート機能は職員が担当し、研究開発テーマの発掘、研究開発グループの創成支援を行った。また、岡山県独自のサポイン事業紹介チラシを作成し、フォーラム・セミナー等でサポインの制度・施策の周知に務めた。
- (2) PR・発掘・マッチング事業では、県内中小企業300社に基盤技術のアンケート調査を実施するとともに、大学、支援機関のコーディネータが研究シーズ・ニーズを紹介する「シーズ・ニーズ情報分科会」を開催した。
- (3) コンソ創成支援事業では、バイオマスプラスチックGrと溶射技術Grの2つの研究開発グループが創成され、20年度のサポイン研究開発計画の認定を目指している。
- (4) 種まき事業では、医用工学Gr、切削加工Gr、食品新技術Grにおいて川下企業との交流会やセミナーを開催して、研究開発テーマの発掘に努めた。新たに新材料技術融合Grが創成された。

(概要図)



1フォーラム構成企業者数及び企業者名

		川上中小企業者数		川上中小企業者・団体名
川上中小企業者	コンソ創成	バイオマスプラスチックGr	6	水菱プラスチック工業(株)、ワタナベ工業(株)、丸五ゴム工業(株) みのる化成(株)、三乗工業(株)、難波プレス工業(株)
		ロボット開発Gr		創成中
		溶射技術Gr (新規)		倉敷ボーリング機工(株) 他
	種まき	医用工学Gr	5	コアテック(株)、(株)日本ステントテクノロジー、ナカシマプロペラ(株)、山陽電子工業(株)、オオタ(株)
		切削加工Gr	6	井原精機(株)、(株)化繊ノズル製作所、倉敷ボーリング機工(株)、(株)三矢鉄工所、(株)滝澤鉄工所、安田工業(株)
		食品新技術Gr	4	キミセ醤油(株)、(有)まるみ麹本店、(株)まるみや、白菊酒造(株)
		新材料技術融合Gr (新規)	17	ナカシマプロペラ(株)、内山工業(株)、ゼノー・テック(株)、(株)化繊ノズル製作所、ワタナベ工業(株) 他

		川下企業者数		川下企業者・団体名・有識者名
川下企業者	コンソ創成	バイオマスプラスチックGr	1	三菱自動車工業(株)
		ロボット開発Gr		水島コンビナート立地企業を想定
		溶射技術Gr		川上企業を通じて依頼中
	種まき	医用工学Gr	2	クラレメディカル(株)、オージー技研(株)
		切削加工Gr	4	三菱自動車工業(株)、松下電器産業(株)、住友重機械ファインテック(株)、三井造船(株)
		食品新技術Gr	2	(株)フジワラテクノアート、トーステ(株)
		新材料技術融合Gr	6	JFEスチール(株)、(株)クラレ、三井造船(株)、萩原工業(株)、九州耐火煉瓦(株)、DOWAIクリエイション(株)

2. 事業実績

(1) フォーラム(シンポジウム・交流会等)開催実績

フォーラム名等		参加企業		参加数	開催日	開催内容
		川上企業	川下企業			
バイオマスプラスチック Gr		5	1	18	H19.9.7	植物由来材料の動向と課題など
医用工学 Gr	第1回	1	2	15	H19.9.26	・川上・川下ネットワーク構築事業の説明 ・次回セミナーの担当者・依頼先日程等
	第2回	1	2	18	H20.1.16	・川上・川下ネットワーク事業へのアプローチ ・来年度の計画 等
切削 Gr	第1回	5	5	14	H19.12.3	・次回見学会の確認 ・サポイン法の説明 ・セミナー内容の確認等
食品 Gr	第1回	9	1	19	H20.1.30	・川上・川下ネットワーク構築事業の説明 ・次回セミナーの担当者・依頼先日程等
新材料 Gr	第1回	3	1	17	H20.1.24	・フォーラムの運営について ・サポイン法の説明

(2) セミナー・勉強会開催実績

セミナー名等		実施日	検討課題(テーマ名)	参加企業	
				川上企業	川下企業
バイオマスプラスチック Gr		H19.11.19	・竹繊維工業化について ・バイオマス資源環境システムの考案 他	7	1
ロボット研究開発 Gr		H20.1.28	・ロボットビジネスへの大阪からの挑戦 他	39	1
医用工学 Gr	第1回 セミナー	H19.9.26	・(財)岡山県産業振興財団の研究開発事業への取り組み ・ロボティック・サージェリー・システム ・産学官連携による医療ロボットの開発 他	15	2
	第2回 セミナー	H20.1.16	・矯正歯科のニーズとシーズ ・人工骨の現状と将来の骨再生の展望 ・ナノバイオデバイス研究の最新動向 他	23	2

切削加工 Gr	第1回 セミナー	H19. 9.19	・(財)岡山県産業振興財団における研究開発事業への取り組み ・3Dマイクロ・ナノスケール機械加工への挑戦 他	13	4
	第2回 セミナー	H19. 10.22	・セラミックス全般について ・加工テーブルの振動対策 ・歯車減速機における歯車研削加工の実際 他	17	5
	第3回 セミナー	H19. 12.3	・金属加工油剤の長寿命化と再利用について ・エッジ品質のJIS化に対応したバリ取り・エッジ仕上げ	16	13
	第4回 見学会	H19. 12.13	ナカシマプロペラ(株)の工場見学会を実施し、船舶用プロペラの切削技術等について見学及び意見交換を行った。	35	7
食品 新技術 Gr	第1回 セミナー	H20. 1.30	・醸造・醗酵技術とバイオエタノール生産技術の開発 ・アジアの伝統食品・食材と食品安全 他	13	1
新材 料技 術融 合 Gr	第1回 セミナー	H20. 1.24	・新材料技術の融合について ・セラミックスの腐食研究	17	6

(3) シーズ・ニーズ調査実績

<ul style="list-style-type: none"> ・基盤技術に係るアンケート調査 1回(ものづくり企業 300社) ・シーズ・ニーズ情報分科会 3回
--

(4) 販路開拓実績

展示会名等	参加企業		開催日	開催場所	開催内容・検討課題等
	川上企業	川下企業			
該当無し					

(5) ジョイント・コーディネータの配置及び果たした役割について

氏名	所属	専門分野	川上・川下間のシーズとニーズのマッチング及び連携コーディネートの内容等
鈴木 幸次	当財団		溶射技術(各種皮膜製品)研究開発グループの創成に向けて、コーディネート機能を発揮した。
三島 佳洋	当財団		自動車内装部品(バイオマスプラスチック)研究開発グループの創成及び新材料技術融合Gr設立に向けて、コーディネート機能を発揮した。
本位田和昭	当財団		ロボット・テクノロジー研究開発グループの創成に向けて、コーディネート機能を発揮した。

3. 本事業の実施結果(成果)及び評価

(1) 成果

1) ジョイント・コーディネート機能

ジョイント・コーディネート機能は職員が担当し、「ものづくり基盤技術の高度化」に関して、研究開発テーマの発掘、研究開発グループ(コンソーシアム)の創成支援を行った。

今後は、研究開発計画の作成支援・認定支援、開発支援事業への提案支援等を一貫して行う予定である。

2) PR・発掘・マッチング事業

「ものづくり基盤技術の高度化」に係る制度・施策の周知のため、フォーラム・セミナー等に積極的に参加して情報提供すると共に、岡山県独自のサポイン紹介チラシを作成した。

ものづくり企業 300 社を選出して、基盤技術に係るアンケート調査を実施した。今後はその中から有望と思われる案件については、ヒアリングや川下大企業とのマッチングを実施していく。

おかやまコーディネータ連絡協議会と連携し、大学、支援機関のコーディネータが研究シーズ・ニーズを紹介する「シーズ・ニーズ情報分科会」を3回開催し、サポイン案件の発掘を行った。

3) コンソ創成事業

バイオマスプラスチックGrにおいては、川下企業のニーズを反映するための川下企業とのマッチングを行い、「ブロー成型」に関する研究開発グループが創成された。20年度のサポイン研究開発計画の申請・認定を目指す。

ロボット研究開発Grについては、1月にグループ創成のためのセミナーを開催し、4月以降、研究開発グループの創成を行う予定である。

新規研究開発Grとして、種まき事業の切削加工Grから「溶射技術Gr」を創成中であり、20年度のサポイン研究開発計画の申請・認定を予定している。

4)種まき(基礎)事業

医用工学Grにおいては、セミナーを開催して研究開発テーマの発掘に努めた。

切削加工Grにおいては、川下企業ニーズの把握のため、川下企業との交流会やセミナーを実施し、上記のとおり「溶射」に関する研究開発グループを創成中である。

食品新技術Grにおいては、グループ内のサポイン事業を実施している企業からの発表を行い、研究開発グループ創成への働きかけを行った。

職員によるジョイント・コーディネート機能から新しく新材料技術融合フォーラムが設立され、20年度以降連携してグループ創成を目指すこととなった。

(2)評価

県内の川上・川下企業の状況を的確に把握している財団職員がジョイント・コーディネート機能を担当したことにより、20年度のサポイン研究開発計画の認定を目指している、バイオマスプラスチックGrと溶射技術Grの2つのコンソーシアムが創成された。これは川上・川下ネットワーク構築支援事業の大きな成果と評価できる。

また、県内中小企業300社に基盤技術のアンケート調査を実施することにより、県内企業の基盤技術について網羅的に収集でき、ジョイント・コーディネート機能を発揮する対象が明確になったことで、今後の事業の成果が期待できる。このように、特定事業(サポイン事業)に対するアンケート調査は初めての試みであり、国・県等の研究開発事業の効果的な推進に寄与するものとする。

川上・川下ネットワーク構築支援事業を通じて、バイオマスプラスチックGr、溶射技術Gr、新材料技術融合Gr等新たなグループが形成されており、これらのグループの活動により「良い玉(案件)」の発掘が期待でき、次につながる基礎的な成果といえる。

4. 連携プロジェクトへのアプローチについて

連携プロジェクト名	対象分野	今後のアプローチ	参加企業数	
			川上企業	川下企業
「ブロー成型」研究開発グループ (戦略的基盤技術高度化支援事業)	プラスチック 成型加工	平成20年度申請予定。	3 (予定)	1 (予定)
「溶射技術」研究開発グループ (戦略的基盤技術高度化支援事業)	溶射	平成20年度申請予定。	3 (予定)	1 (予定)

(その他アプローチについて)

対象分野	今後のアプローチ	参加企業数	
		川上企業	川下企業
	該当無し		

5. その他

相談内容	回答実績
該当無し	

6. 今後の取組み方針

19年度の事業において「ものづくり基盤技術の高度化」事業の制度・施策のPRを積極的に展開したが十分とは言えない。重要産業の国際競争力を向上させるという当事業の目的を達成するためには、まず「良い玉(案件)」発掘することが第一であるので、今後とも制度・施策のPRに注力したい。また、当財団が事務局を担当している、「岡山産学官連携センター」や「おokayamaコーディネーター連絡協議会」等と連携してシーズ・ニーズの把握を中心にジョイント・コーディネート機能を発揮し、コンソーシアム創成に取り組む。

20年1月に実施する県内川上中小企業への基盤技術の保有調査(シーズ調査)の調査結果をもとに、有望と思われる案件についてはヒアリングを行い、該当する川下大企業とのマッチングを推進したい。

岡山県が20年度新規事業として予算要求中の研究開発関連事業(「次世代自動車関連技術開発事業」「RT(ロボットテクノロジー)ビジネス創出支援事業」)を通じて、岡山県と密接に協働して、新しいテーマの発掘・育成業務を展開する意向である。